

36

2019・November
●Published by KOBECOLLEGE
神戸女学院大学

●国際交流センターの取り組み

「国際理解」の機会を提供し 学生の成長を促す

化学物質による環境生物への影響と
メカニズムを解明する——5

解熱鎮痛剤の成分がメダカに与える毒性影響
人間科学部 環境・バイオサイエンス学科 横田 弘文 教授

音楽の力で、子どもの主体性を引き出す——9

——時代のニーズに応えられる保育者の養成——
学校法人関西学院 聖和短期大学 専任講師 山内 信子 さん

●英文学科特別プロジェクト「人生への戦略」
人生の“Ownership”を持つ大切さを——11

自ら必要な知識を学び経験する姿勢を身につける

●親子関係を劇的に改善する心理療法

PCITセラピスト養成が本学で始動！——12

●キャリアセンターによるインターンシップ支援

就業体験を通じて視野を広げよう！——13

オープンキャンパスで、質の高いアンサンブル作りを体感——14

文化財を通じ、地域文化の広がりや豊かさに触れる——15

——日本美術の奥深さに魅せられて——
東京国立博物館 アソシエイトフェロー 曾田 めぐみ さん

本学学生が2019ミス・ユニバース日本代表に！——16

●専門を越えた学びの形「クローバーゼミ」

多角的な視点を持ち、自ら学びを深める——17

アクティブ・ラーニングの手法を用いた参加型授業

KCインフォメーション——19





本学では、2014年から2019年に国際化ビジョンを掲げ、学内の国際化や海外留学の促進、海外インターンシップなどを推進してきた。国際交流センターディレクターの北川将之教授(総合文化学科)と、同センター課長の門谷清さんと職員北川真優美さんに、国際交流センターの活動の意義と、留学・海外研修に対する本学のサポートシステムについて、また実際に留学した学生に留学生活で得たものなどについて話を聞いた。

国際交流センターの取り組み 「国際理解」の機会を提供し 学生の成長を促す

●学生の意欲に応えるために 多彩なプログラムを用意



●国際交流センターディレクター
北川 将之 教授
(総合文化学科)

▼ネットワークが広がり選択肢も多彩

建学の精神で謳う「国際理解」の機会の提供を目的として、さまざまな形での国際交流活動を展開しています。本学から留学生を派遣するだけでなく、留学生受け入れプログラム、海外から来日する学生講師との交流合宿など。中でも留学・海外研修に対する学生のニーズは高く、プログラムの内容も多様化しています。現在の派遣留学先は16校。当初はアメリカが中心でしたが、欧州やアジアの国々にネットワークが広がっています。教員同士のつながりから交流を深

▼渡航先の社会体験が 卒論のテーマへと発展

近年のニーズとして語学を学ぶだけ

め、協定締結につながっているため、われわれも安心して学生を送り出すことができます。

近年の傾向のひとつは、中期英語留学・中期海外研修の希望者の増加です。この背景には、就職活動や費用面などがネックとなっていた学生も、中期ならばチャレンジしやすい実情があります。短期の語学研修では物足りない、かといって1年間の留学はハードルが高い学生にとって、6か月という期間はちょうどよいようです。

この期間や費用面がネックになるのは、本学にやってくる外国人学生も同じ。そこで従来の交換留学生だけではなく、10日〜2週間程度の短期研修受け入れを年に4〜5回に増やしたことで、キャンパス内での国際交流が活発になってきました。

●事前研修から滞在中の生活相談まで支援

▼事前研修で 異文化への戸惑いを軽減

本学では20年ほど前に国際交流センターが設立されました。以来、留学のあつせんや海外大学との折衝、本学から留学する学生および提携校から来日する外国人学生への滞在中のサポートなどを行っています。

留学・海外研修の募集については、毎年4月(1・2年生対象)と10月に説明会を開催。また、留学・海外研修が決まった学生を対象に、期間の長短に関わらず事前のオリエンテーションを必ず実施しています。日本と文化の異なる海外では、生活スタイルもさまざま。ホームステイでは水が貴重なためシャワーをゆつくり浴びられなかったり、洗濯や朝食の準備が留学生に任されている場合もあります。そういった環境の違いに戸惑うことなく学業に励むことができるよう、事前研修で具体的な生活状況を説明しています。



●国際交流センター 課長
門谷 清

▼思いを整理し 何をやりたいのかを探る

協定校からの交換留学生に対する支援としては、本学の寮を手配し、履修登録の指導をするオリエンテーションを実施するほか、日本文化・日本現代事情を紹介する英語のオムニバス講義を開講しています。茶道や華道、和食、合気道などを体験することができ、留学生にも好評です。また、例年7月と1月に本学生のバディを募集し紹介していますが、歓迎会やクリスマスパーティなどの機会を通して日本人学生との交流を図っています。

学生の中には留学に漠然と興味を抱いているものの、どの種類の留学やどの学校が合うのか判断に迷う方もいます。そういう場合は期間、費用面などの条件を提示しながら、その学生が何を望んでいるのかと一緒に整理していきます。派遣、中期、語学研修であれば、自身の語学力の基礎を上げるのか、



●国際交流センター 職員
北川 真優美

ではなく、滞在している国の社会問題を知ることや、インターンシップ体験の希望も増えています。語学力向上と異文化理解を目的とする中期海外研修は、それにぴったりのプログラム。例えばオーストラリア・クイーンズランド大学では、最初の20週間は英語研修、その後、4週間は大学付近の企業・組織で就業体験に取り組みます。

私のゼミ生では、中期海外研修をきっかけに卒論のテーマを見つけた学生がいました。カナダのヨーク大学で学んだ学生は、トロント市の移民の多さを知り、多文化社会をテーマに。また、オーストラリアのクイーンズランド大学で学んだ学生は、研修期間中に現地で同性婚が合法化されたことに衝撃を受け、各国の同性婚の実態について調べています。

このように留学中に見聞きした出来事が、後の専門的な学びへとつながっていく例は少なくありません。国際交流とは大学と大学のつきあいではなく、学生と学生との交流が大事。留学先、研修先で一人の学生がいかに主体的に動き、どんな人と出会い、どのような学びが持てるのか。そこで喜びもトラブルもあり、そのひとつひとつの物語の蓄積が国際交流センターにとっても財産となります。これからも意欲ある学生にチャンスを与えることができるよう、よりよい国際交流のあり方を模索していきます。

ある程度語学ができた上で留学を目指すのかといった目的によって選択は分かれます。費用面のサポートについては、派遣留学では留学先の授業料が全額免除、また認定留学では神戸女学院めぐみ会の海外留学奨学金制度に応募することがあります。学生たちに特に役立つのは先輩の体験談で、現地の生活の話を聞くとイメージをつかみやすいようです。

もちろん意欲が強くても、語学力が一定のレベルに達していなければ留学への応募はできません。そこで出願に必要な語学力を測るIELTS・HSK・ハングル検定試験の対策講座も開講し、一人でも多くの学生が留学を実現できるようにサポートしています。そして留学から帰国した学生には身につけた語学力やコミュニケーション力を卒業後の進路で大いに活かしてほしいと期待しています。

国際交流を深めるために大切な原点は、本学創立者のイライザ・タルカット先生が説いた相互理解の心です。タルカット先生が神戸に到着して最初に書いた1873年4月12日付の手紙に「神戸の少女たちと早く話ができるようになりたい」ということばがありますが、これは、「お互いの気持ちを理解できるようなりたい」という願いを意味しているといわれています。柔軟な心で異文化を受け入れて、留学をステップアップの機会としてほしいと思います。



イーストアングリア大学にて
学生講師と触れ合えること、1週間英語しか使われない生活に惹かれて応募しました。2年次はイギリスに留学。事前に

現地の学生たちから教わった 自分の意見を話すことの大切さ

- ▶2017年度 オックスブリッジプログラム 参加
- ▶2018年度 イーストアングリア大学(英国)留学



●英文学科3年生

共通英語教育研究センターで模擬授業を受け、厳しくされたことで、留学生活に臨む覚悟ができたと思います。前期は国際関係やジェンダーに関する科目と英語、後期は哲学と翻訳の授業を中心に履修。印象に残るのは、イギリスの大学ではディスカッションが多く、誰もが積極的に発言していたことです。日本では周囲の意見を尊重したうえで自分の意見を言う人が多いですが、イギリスでは「あなたはどう思う?」と問われれば、即座に答えます。中学・高校でもディスカッションの授業があり、発言が習慣づいているようです。数か月に1回は留学生ブログを更新。国際交流センターの方に「こんなことでカルチャーショックを受けましたが頑張っています」と報告することで、自分のモチベーションを保つことができました。

課外活動は、韓国のポップスが好きなことから韓国文化のサークルで活動。寮では現地の学生や、欧州各国、アジア出身の学生と一緒に生活し、食事ひとつも国際色豊かで飽きることがなかったです。

留学以前は他人の目を気にしすぎる場所がありましたが、現地の学生の影響を受けて、自分らしく生きたいと思うようになりました。言葉数が短くても自分から話す勇気を身に付けられたことが収穫です。

留学体験者からのメッセージ〈KC→海外〉



●英文学科3年生

毎日が初めての経験の連続 やればできると大きな自信に

- ▶2017年度 夏期語学研修西オーストラリア大学 参加
- ▶2018年度 ロックフォード大学(米国)留学



ロックフォード大学で友人達と記念撮影

長期留学を視野に親元を離れた生活を経験してみようと、1年次は短期語学研修にチャレンジ。自分は何ができて何ができないのかを知りたかったのです。オーストラリアは水不足なので、一人あたりのシャワーの時間が3分と短く、いかに効率よくシャワーを浴びるかを考えるだけでたくましくなったと思います。語学力についてはリスニングが伸び、入学前と比べてTOEICが400点近くもアップしました。

年次からの留学では舞台芸術の制作を専攻。ひとつの小説を元に舞台設定をデザインしたり、キャラクターが映えるコスチュームや照明を追究したり。一緒に学ぶアメリカ人は、陽気に鼻歌を歌いながら歩いているような人たちが、授業中に何か意見を言う時も、言葉だけでなく「こういう感じだったよね」と自然に歌い始めるんです。彼らの自己表現力の豊かさに、同じ学生でもこんなに違うのかとカルチャーショックを受けました。

国際交流センターには適宜近況報告し、いろいろと助けていただきました。出発前はロックフォード大学に留学した先輩を紹介され、情報交換でできました。現地の手続きに心配があった時にアドバイスをいただきました。いざという時に相談できる場所があるのは安心です。

まったく経験のない生活に思い切つて飛び込めたことで、何でも挑戦することが大事という気持ちが強くなったのは確か。とりあえずやってみればいろいろな人とつながってチャンスも広がるのだと、そんなことを教えてくれた貴重な留学生活でした。



神戸女学院から海外へ 海外から神戸女学院へ

●留学体験者が語る“世界での学び”

交換留学生からのメッセージ〈海外→KC〉

日本人学生と一緒に学べる カリキュラムが魅力

▶海外留学生：2019年4月～2020年1月



●文藻外語大学4年生(台湾)

台湾の文藻外語大学で日本語を専攻しています。元々、言語に興味を持っていて、最初は英語の勉強に専念しましたが、台湾では英語と中国語を話せる人は多いため、もうひとつ言語を学んだ方が就職の際に強みになると考え、日本語に興味を持ちました。

女学院では英語と日本語の翻訳を学んでいます。留学期間は2019年4月から2020年1月まで。提携校について調べたところ、留学生は留学生別科に入る大学が多かったのですが、女学院は一般学生と同様に好きな科目



大学も卒業できるため、将来は日本の就職を希望しています。しっかり勉強して、残る留学期間も頑張ります。

を履修すること、寮で日本人の学生と一緒に生活できることに魅力を感じました。

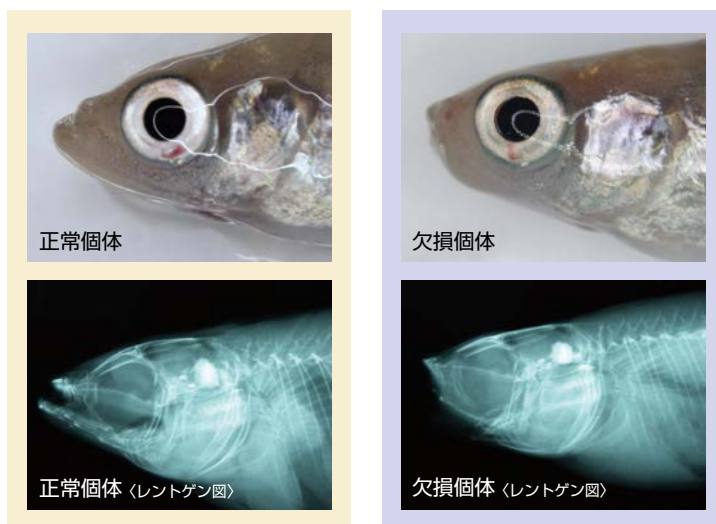
日本語学科は少人数制のチュートリアル科目がわかりやすいです。翻訳の仕方に間違いがあっても、間違いと指摘されるのではなく「こういうふうに訳したらいよいよ」と指導されるので、自信をなくすことなく学べます。また、「日本語Ⅲ 文法・作文」でレポートの課題があった時も、日本語で書くのは大変だからと、先生がゼミ生を紹介してくださいました。日本語教師を目指す一般学生にとっても留学生との交流はプラスになると言われ、楽しく交流しています。

海外で生活するのはドキドキでしたが、買い物などのバディに教えてもらいました。3人もバディがいるので、毎日誰かがサポートしてくれると思うと心強いです。寮ではみんなで一緒に夕食をつくったりと、寂しいと感じたことはありません。

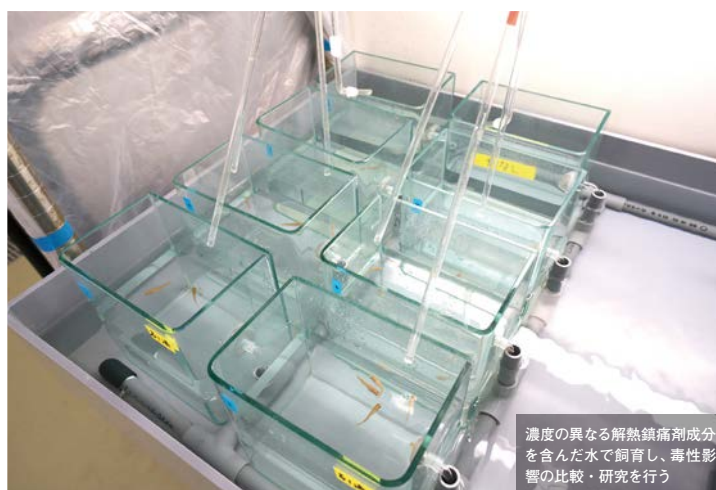
留学期間中に単位を取れば文藻外語大学も卒業できるため、将来は日本の就職を希望しています。しっかり勉強して、残る留学期間も頑張ります。



▼環境中で検出される医薬品成分のメダカを用いた毒性研究



左 正常なメダカの頭部 右 ある解熱鎮痛剤成分を含んだ水で2週間飼育した後、下顎が欠損したメダカ



濃度の異なる解熱鎮痛剤成分を含んだ水で飼育し、毒性影響の比較・研究を行う

生産量も排出量も多く、薬理作用的に同じ脊椎動物である魚にも影響が出ることを考えたためです。最初は繁殖への影響を調査していましたが、予期せぬことに、2013年度の卒業研究で、解熱鎮痛剤がメダカの下顎を欠損させることを発見しました。下顎が、しかも雄だけ欠損するという発見は世界初。卒業論文を英訳して米国環境毒性学会の専門誌に発表(Yokota H, Higashi K, Hanada E, Matsuzaki E, Tsunoda Y, Suzuki T, Nakano E, Eguchi S.(2017)

Recovery from reproductive and morphological abnormalities in medaka (*Oryzias latipes*) following a 14-day exposure to diclofenac. *Environmental Toxicology and Chemistry* 36, 3277-3283.)「世界的にも大きな反響を呼びました。以後そのメカニズムの解明に取り組んでいます。なぜ下顎だけ欠損するのか？なぜ雄だけ欠損するのか？他の解熱鎮痛剤でも起こるのか？メダカ以外の魚類にも生じるのか？……と、解明したい

研究テーマは増える一方で。——その後の研究により、分かってきたことは、まず、下顎だけ欠損する理由は、魚の場合エラ呼吸で24時間常に顎を動かしているためと考えられます。通常、骨は骨をつくる骨芽細胞と骨を壊す破骨細胞がバランスを取りながら代謝しています。魚の下顎は骨の代謝が最も活発な部位であり、破骨細胞が異常に活性化し、欠損に至るといふことが分かりました。

興味深いのは、メダカが大人になってから薬に晒すと2週間程で下顎欠損するのに対し、受精卵や孵化直後から晒すとなかなか変化は現れず、孵化後40日目頃から欠損することです。毒性学の常識で考えると、成魚よりも稚魚の方がはるかに低い濃度で影響が出るはず。相容れない結果であり、こちらも論文に発表しました(Yokota H, Taguchi Y, Tanaka Y, Uchiyama M, Kondo M, Tsunoda Y, Suzuki T, Eguchi S. (2018) Chronic exposure to diclofenac induces delayed mandibular defects in medaka (*Oryzias latipes*) in a sex-dependent manner. *Chemosphere* 210, 139-146.)。また、欠損する時期は、人間で言えばちょうど二次性徴が起る年頃。雄だけに生じることからも性ホルモンが関係していると想像でき、現にメダカの雄に解熱鎮痛剤と女性ホルモンを同時に与えると欠損は見られませんでした。

さらに、下顎欠損はメダカでは雄だけに見られますが、他の魚では雌雄関係ないことも分かりました。広島国立研究開発法人水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所との共同研究により、下顎欠損は海産魚にも生じ、魚類全般に起こりうる特異的な毒性現象であることを確認。学会にも発表し「解熱鎮痛剤ジクロフェナク曝露により誘発されるマミチョグの下顎欠損」日本水産学会大会講演要旨集 2018 8 (2018年3月)、注目を集めました。



化学物質による環境生物への影響とメカニズムを解明する

●解熱鎮痛剤の成分がメダカに与える毒性影響

■人が服薬、排出した医薬品成分が環境生物に及ぼす影響とは

——「出身は水産学部だそうですね。私はもともと魚の免疫に関する研究をしていました。生態毒性学を知ったのは、前職の化学物質評価研究機構に入ってから。免疫を学んできたのなら毒性も出来るだろうと、生態毒性学の部門に配属されたのです。比較的新し

い学問であり当時は殆ど研究されていませんでしたが、意義のある研究分野だと感じ、自身で発展させたいと思いました。最初から最先端の研究機構に配属され、運がよかったですね。

——研究テーマをお聞かせください。河川で検出される解熱鎮痛剤等の医薬品成分が、メダカ等の魚にどのような毒性影響を与えているのかを研究しています。解熱鎮痛剤に着目したのは、



●人間科学部 環境・バイオサイエンス学科
横田 弘文 教授——YOKOTA Hirofumi

私たちの日常生活の中で、化学物質はもはや必要不可欠であり、生活の質の向上に計り知れない恩恵をもたらしている。しかし一方で、海洋汚染、オゾン層の破壊、有害廃棄物の越境移動など、地球的規模の化学物質汚染が切実な問題となっていることも事実だ。人間活動に伴い環境中に放出された化学物質が、環境生物にどのような毒性影響を及ぼしているのか？その毒性影響をなるべく早期に検出するにはどうしたらいいのか？メダカやミジンコ等の水生生物を用いて研究を進める横田弘文教授に話を聞いた。



現在、国内の野生メダカは絶滅危惧種に指定され、兵庫県内でも数が減少。阪神地域も生息している箇所は僅かに残るばかりです。

メダカは地域によって遺伝子が異なり、他地域のメダカと交雑すると、遺伝的多様性が損なわれてしまいます。武庫川水系、明石川水系、加古川水系の生息状況を遺伝子解析実験したところ、残念ながらどの水系にも持ち込まれた関東のメダカが紛れ込んでいました。また、在来メダカも遺伝子レベルで解析すると様々なグループに分かれ、武庫川水系のメダカであっても、下流の西宮のメダカと上流の三田、篠山に生息するメダカとは遺伝子が異なるため、交ぜてはいけないことも分かりました。調査の一番の目的は国内外来種問題ですが、保護・育成のためには伝えることも大切。毎年、研究内容



▲▼子どもたちを対象に開催されたメダカの飼育教室の様子

やメダカの飼育方を小学生に紹介する活動も行っています。

■新しいバイオモニタリング法の確立を目指して

— 今後の展望をお聞かせください。

短期的には、前述のような下顎欠損のメカニズムを解明したいです。人間が活動する限り、環境負荷はなくなりません。長期的には、何がどれくらい負荷をもたらし、それを軽減するためにどのような改善が必要なのかを、化学物質と環境の観点から明らかにしていきます。今、国際的に医薬品類の毒性影響を評価する試験方法を確立しようという動きが起っています。一般的な化学物質は短期間の曝露で死ぬか死なないかの急性影響をモニタリングすることが最初のステップですが、医薬品は短期間の曝露で死ぬことはまずありません。



その他、様々な解熱鎮痛剤の有効成分の違いによる影響も調査中です。恐らく薬理活性が強いと影響も出やすく、今はジクロフェナクで実験しているところですが、これらの実験はメカ（メカニズム）班で進めています。また真のメカニズムまでは突き止めておらず、今後、一つ一つ解明していきます。

— メダカ以外にも同様の研究を？

研究室はメカ班、カエル班、音班、

ミジンコ班、野生メダカ班の5班で活動しており、メダカと同様の毒性実験はカエル班で行っています。魚と同じ水生の脊椎動物ではどうなるのかをネッタイツメガエルで調査しているのです。今はカエルで実験中ですが、次のステップでは受精卵やオタマジャクシから曝露し、カエルに変態した際にどうなるのかを調べてみる予定です。



■メダカの「声」から流入した化学物質を検知する

— 新たな取り組みも開始されたとか。

4月から音班で、メダカの声から毒性影響の早期検出ができないかの調査を始めました。メダカが声を発することを最初に明らかにしたのは、私の師匠である九州大学の大嶋雄治教授。水質管理の観点から、例えば浄水場で魚を飼育し、有害な物質が流入したら、その行動から早期に検出できないか？魚の動きは水が濁ると観察できないため、水中マイクで声の変化を検出できないか？と、開発に取り組まれたのです。様々な化学物質をメダカに与えると声に変化するという論文も発表されており、興味深く、一緒に研究させてくださいと志願しました。

化学物質に曝露されると、メダカの声の間隔は伸びたり縮んだり、明らかに変化します。例えば、アルコールのような化学物質に晒され酔っぱらったメダカは、不安を感じなくなり外敵に襲われやすくなるはず。その変化を声から検出できないかと考えています。今は、メダカが喋っているところにプラスチックバスの匂いをする水を入れ、不安にさせるとどうなるのか実験中です。

■海洋プラスチックごみ問題の解消に向けて

— ミジンコの研究は、シャンプーに含まれる界面活性剤の影響等、以前か

ら行われていますね。

現在のミジンコ班は、国内でも深刻化しているマイクロプラスチック問題を扱っています。SDGs「持続可能な開発目標」における環境負荷への取り組みの一環であり、学生も非常に興味を示しています。

廃棄されたマイクロプラスチックは、海産だけでなく淡水の水生生物にも影響を及ぼすはずです。ミジンコの体内にどのように取り込まれ排出されるかを調べてみると、餌である植物プランクトンと一緒に食べ、比較的速やかに排出することが分かりました。ただ、実験で用いる綺麗な形状のマイクロプラスチックではなく、自然界に存在する歪な形のものが入るとどうなるのか？また、環境中のマイクロプラスチックは有害物質をほとんど吸着するため、それらが体内で溶け出し影響が生じるのではないかなど、課題は尽きません。まずはマイクロプラスチック自体が問題なのか？排出すれば問題ないのか？を明らかにしたうえで、環境への負荷や、それを無くするための取り組み、生分解性プラスチック代用の有効性などを地道に研究していきます。

■野生メダカの保護、育成を

— 一方で、野生メダカのフィールド調査もされていますね。

西宮市、宝塚市、神戸市とも協力し、兵庫県南部一帯に生息する野生メダカの遺伝的多様性について調査しています。

せん。長期間かつ低濃度の曝露で毒性影響が生じその影響も薬理作用ごとに異なるはず。今後何十年かけて試験デザインし、将来的には開発したバイオモニタリング法が国際的なスタンダードとされるOECD（経済協力開発機構）化学品テストガイドラインに採用されることがゴールになると考えています。

— 研究を通して学生に伝えたいことは？

3つあります。1つ目は、「サイエンスは面白い」ということ。なぜこんな現象が起きるのか？自分で実験し、現象を目の当たりにした学生は、どんな興味を持ち、毎日学校に通って研究に没頭しています。そんな風に、理系学

科ならではの面白さを体験として学びとってもらいたいですね。

2つ目は、「結果が出るまでには、毎日の地道な積み重ねが非常に大切」ということ。これは社会に出てからも同じ。実際、今日も下顎が欠損したメダカは現れず、学生は掃除と餌やりをしただけです。それを毎日繰り返していると、ある日突然、欠損が現れ、興味深い結果が出る。実験を通して積み重ねることの意義を実感して欲しいです。

3つ目は、「できるだけ学会で発表し、論文にしよう」ということ。将来、学生時代に行ったことをネット検索すれば、ちゃんとヒットする。一生残るものを、ぜひ構築して欲しいのです。

人間が活動する限り、環境負荷はなくなりません。長期的には、何がどれくらい負荷をもたらし、それを軽減するためにどのような改善が必要なのかを、化学物質と環境の観点から明らかにしていきます。



■横田弘文（よこた・ひろふみ）——博士（農学）。九州大学大学院生物資源環境科学研究科博士後期課程修了。一般財団法人化学物質評価研究機構を経て、2010年より神戸女学院大学に着任。化学物質審査規制法審査支援等検討会委員、西宮市環境審議会会長。専門は生態毒性学。研究分野は、環境中に放出された医薬品やマイクロプラスチックの水生生物に対する影響評価。兵庫県南部に生息する野生メダカの遺伝子型解析。河川水から検出される解熱鎮痛剤の魚類に対する毒性影響。[Chronic exposure to diclofenac induces delayed mandibular defects in medaka (*Oryzias latipes*) in a sex-dependent manner] (2018年)等、一連の研究論文を発表している。

K.C.Alumni

■山内(阪下)信子(やまうち/さかした・のぶこ)

1996年音楽学部 音楽学科卒業。在学中、ハンナ・ギューリック・スエヒロ賞受賞。97年同大学専攻科修了。神戸女学院同窓会の奨学金を得て、同年オーストリア国立ザルツブルク・モーツァルテウム大学に留学し、2002年大学院(修士課程)修了。第2回堺ピアノコンクール金賞、第4回かやぶき音楽堂デュオコンクール第3位入賞。00年、03年にソロリサイタル開催。ピアノを池田洋子、J.ストンベル、B.ベクテレフ、C.リースケの各氏に師事。03年より大学等での非常勤講師を経て15年より現職。

時代のニーズに応えながら、根っことなる目に見えない部分を大切にする保育者を育成していきたいですね

◎保育士等を対象とした研修の運営

2017年度より厚生労働省がガイドラインを定める「保育士等キャリアアップ研修」がスタート。聖和短期大学は研修実施機関として指定を受け、山内さんはその運営チーフに任命された。この研修は、保育士の専門性の強化と処遇向上を目的とした制度。「これまで保育士を対象とする国の研修制度は無く、手探りの中、スタートしました」。他の教員や職員と共に自治体への申請書類の作成や運営スケジュールの調整に取り組み、ようやくペースが出来てきたという。

これからの保育者に求められるのは、「多様なニーズに応えつつ、質の高い保育を実践する力」と、山内さんは考えている。保護者の就労形態は多様化し、A D H D等の問題もある。社会情勢は刻々と変わり、スマートフォンの普及で子育

ての仕方や環境も激変。昔のように画一的なやり方では対応しきれない。さらに国はICT教育の導入も推進。「保育の現場はアナログなことが多く、先生方もICTをどう取り入れたらよいのか困惑気味。その事例を示すのも研修の役目です。保育や教育の在り方は常に変化しますが、子どもの心の動きを汲み取り、主体性を引き出していく姿勢は今も昔も同じ。時代のニーズに応えながら、根っことなる目に見えない部分を大切にする保育者を育成していきたいですね」。

◎未来の保育者に向けた教材の開発

学生のための教材も研究中だ。かつては、保育者になるにはピアノを弾けなくてはという暗黙の了解があったが、今は入学生の約半数が初学者。幼稚園の約9割、保育所の約6割は採用試験の項目にピアノを定めており、2年弱でいかに弾けるよう導くかは大きな課

音楽の力で、 子どもの主体性を引き出す ——時代のニーズに応えられる保育者の養成——

●学校法人関西学院 聖和短期大学 専任講師
山内 信子 さん—— YAMAUCHI Nobuko

「教育は循環するもの。だから、真摯に学生と向き合わなくては」。学校法人関西学院聖和短期大学保育科で音楽表現の専任講師として教鞭を執る山内信子さん。自身の子どもを保育所に預け始めた時、その担当が教え子という驚きの経験をした。自分の教えたことが学生を通して我が子へ届く……。保育者養成という仕事の責任の大きさを改めて実感。次代を担う若手の育成に力を注ぐ。

◎音楽で基礎能力の発達を促す

大学卒業後、ピアノの芸術性を高め、音楽の真髄に触れたい一心でオーストリアのモーツァルテウム大学へ留学した山内さん。師事したC・リースケ氏からは、音を隅々まで聴くことや楽譜から作曲家の意図を読み取ることを学んだという。教職に就いたのは、帰国後。「ピアノのスキルが生かせればと思いました。実際には大学での学びの全てが教員としての基盤になっています」。聖和短期大学は神戸女学院と同じキリスト教主義。両大学のルーツは創立者J・E・ダッドレー宣教師に繋がる。キリスト教を学んでいたことは大きく、副専攻や教職課程も今に生きている。「毎週の礼拝ではパイオルガンでの奏楽を担っていますが、足鍵盤

題だ。音楽担当の教員で、最低限これを練習しておけば対応できるような教材も作成し、指導に役立てている。

一方、音楽教育系の学会では、従姉妹であり大阪キリスト教短期大学で同様に教鞭を執る川畑尚子氏と、演奏研究発表を行っている。「学生に音楽の芸術としての魅力を伝えるためにも、自ら発表の場で演奏し、音色や響きを探求し続けたいと思います」。

◎親子で楽しめる音楽を届ける

多忙を極める山内さんだが、ライフワークで15年、演奏者として「就学前施設における音楽によるアウトリーチ活動」を続けている。きっかけは、大学3年生の時に起きた阪神淡路大震災。混乱の中、同級生と音楽学部の有志を集め、合唱団を結成。阪急三番街で演奏会を開催して義援金を募り、地域の小学校等で慰問コンサートも行った。「留学後に知り合いの園長先生達からお声がけいただき、今では恒例行事になりました」。

アウトリーチで重要なのは、事前と事後の関係者との綿密な打ち合わせ。日頃の保育に繋がるテーマを決め、子どもが飽きないよう、クイズ形式にしたり身体活動を取り入れたり、教育的効果も考える。当日は、ドレスを着て非日常の演出を心がけつつ、親しみやすい雰囲気を作る。来年へのリサーチも欠かせない。「まだ広く周知されていないため、アウトリーチを取り入れた就業前施設や開催を希望する保護者

や音色に親しんでいたため、すんなりと馴染めました。また、保育に必要な歌唱指導では音楽で学んだ発声法等が、学生の吹奏楽グループの指導では、指揮法が役立っています」。山内さんが担う幅広い業務を、リベラルアーツ教育の多様な学びが支えている。

幼児教育・保育に携わり、「ピアノの芸術性を高めるだけでは、子どもには通用しない」と実感した山内さんは、スイスの音楽教育家ダルクローズ氏が考案したリトミックに着目した。音楽を手段として子ども達の潜在的な基礎能力の発達を促す教育法で、例えば、即時反応のレッスンでは、先生のピアノに合わせて歩く、走る、止まる等の身体表現活動を行い、子どもの聴く力や集中力、判断力を養う。4年でディプロムを取得し、その要素を授業で学生に伝えている。



▲山内さんが取得したリトミック指導資格の認定証

のために、初めてでもスムーズに開催できる仕組みを作りたい。そう考え、一連の活動を学会発表しています。現状は運営資金が十分とは言えないケースが多いので、将来的には周知や継続が広まり、結果的に音楽家の報酬確保にも繋がると思います」。



▲就学前施設における「音楽によるアウトリーチ活動」の様子
右から、神田美幸さん(M113回卒)、川畑尚子さん、山内さん

◎学生がいつでも立ち寄れる場所を

「今後は、子どもの音の感受を高める活動について研究を進めながら、活動事例を発信したい。そして、この場所を学生にとっていつでも帰って来ることの出来る空間にしたい」。山内さんにとって母校は心を落ち着かせてくれる大切な場所。「卒業生が遊びに来たり、研修の受講に来たりすると、成長がわかり私も嬉しいです。専任講師になって5年。周りの力を借りながらようやく業務の見通しも立ってきたので、個人的には、従姉妹とのDUO「No cousin」での演奏活動等、出演を少し増やしたいです」。

親子関係を劇的に改善する心理療法 PCITセラピスト養成が本学で始動!

Parent-Child Interaction Therapy

問題行動を持つ子どもと苦慮する親を対象に、ライブコーチングにより親子関係を改善する心理療法として近年注目される「親子相互交流療法(PCIT)」。

人間科学研究科國吉知子教授は、大学院でPCIT実践家養成ワークショップ授業を開始。日本初の試みである。「女学院から日本の親子関係を変えるパワフルな臨床家を！」と意欲的に語る。



●人間科学研究科
國吉 知子 教授
— KUNIYOSHI Tomoko



▼親としての関わり方をその場でコーチ

PCITとは暴力、かんしゃく、衝動性など問題行動のある幼児とその親を対象に親子同室ブレイセラピーを実施、別室のセラピストが親に有効なスキルをライブコーチする米国発祥のアクティブな心理療法だ。親はその場でスキルを実践、効果もすぐに実感できる。代表的なスキルには、子どもの行動を具体的にほめる(Praise)、子どもの行動を描写する(Describe)などのPRIDEスキルと、避けるスキル(命令・質問・批判)があり、親はこれらのスキルを着実に身につけていく。

國吉教授は2013年本学心理相談室に関西初のPCITを導入。今年度よりセラピスト養成授業を展開。院生は日本では稀少なPCITトレーナーの國吉教授から「心理療法特論」でPCIT International認定の養成講座を受講、事例にも陪席し國吉教授から直接PCITのケースマネジメントを学ぶ。



PCIT実践家養成ワークショップ授業の様子

修了後は心理相談室で同教授のライブスーパーバイズのもとPCIT事例を担当し認定セラピスト(国際資格)を目指す。修了後も一貫した指導体制が整っているのが本学の強みだ。

▼人は誰でも「承認」を求める

「PCITはユニークな親子療法」と國吉教授は強調する。親子の交流を直接観察できる同室セラピーだからこそ、親子関係の悪循環改善のための行動指針が明確になる。

親子の信頼感を構築する前半、しつけの練習をする後半の二部構成も特長。親がスキルを使って子どもを承認し見守ることで、子どもは情緒が安定する。その上で、子どもが自らの欲求の制御を学ぶステップに進む。親が子どもの



▲PCIT公認テキストと國吉教授によるPCIT解説所収の書籍

衝動や攻撃性を適切にコントロールでき、子どもが親の指示に従えるようになることで親は自信と権威を回復する。「人は誰でも承認されたいと思うもの。PRIDEスキルは人間関係を円滑にするコミュニケーションのエッセンスです。」受講生からは「日頃の自分のコミュニケーションの問題点がかかるように「親との関係を見直せた」といった声があがっているという。PCITは首都圏を中心に広まっているが、日本の大学でセラピスト養成に取り組むのは本学のみ。パイオニアとしての役割は大きい。「子どもを操作するのが、PCITではありません。ほめようと意識すること、親は子どもの良い点が見えるようになるのです。行動は自らの選択であり、誰でも意識的に変えることができます。PCITの普及によって、日本の親子関係の改善に貢献できれば」と國吉教授は笑顔で語る。

人生の“Ownership”を持つ大切さを

●英文学科特別プロジェクト「人生への戦略」

自ら必要な知識を学び経験する姿勢を身につける



人生100年時代の到来に伴い、私達の働き方は大きく変化すると予測される。神戸女学院大学英文学科は2018年4月、特別プロジェクト「人生への戦略」を開講した。これはビジネス英語を使用する企業に就職を考える2・3年生を対象とした授業外プログラム。グローバル企業において、豊富な経験を持つアルディーン千浩氏をコンサルタントとして迎え、メンタリングセッション、講演会、インターンシップなどを実施している。プロジェクトの背景や目的、内容等、学科長の松尾歩教授とアルディーン千浩さんに話を聞いた。

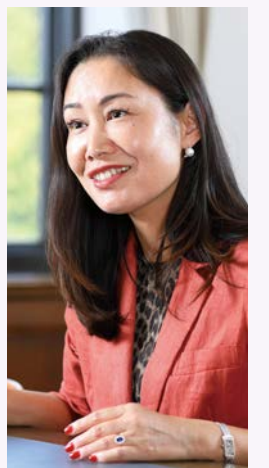


●文学部 英文学科
松尾 歩 教授
— MATSUO Ayumi

MESSAGE
FROM THE CHAIR
—学科長に聞く—

私は長らく学問の世界に身を置いてきましたが、ライフキャリアについて悩む学生にはリアルな社会の状況を理解し、先を見通す力を養うことが重要だと考え、最前線で活躍してきたアルディーンさんをご案内しました。学生の反響はとてよく、これは学科でシェアするべきと進言したところ、特別プロジェクトとして開講が決まりました。「世界で活躍するために必要なのは高い英語力よりもチャレンジする意欲と勇気。希望者全員に受講してほしい」アルディーンさんの意向を尊重し、多くの学生を受け入れています。

プロジェクトの目的とは？
学生自ら必要な知識を学び経験する姿勢を身につけることを目指しています。今後のキャリアを築くために重要な3つの資本「知」「人間関係」「情報」について考えながら、女性としての人生のあり方を学びます。
メンタリングセッションとは、どのような内容なのでしょう？
海外では家族同士の食事会などを通して、子どもの頃から様々な職種で働く人に接する機会があります。しかし、日本では人と人が



●英文学科特別プロジェクト
コンサルタント
アルディーン 千浩 氏
— ALDEEN, Chibiro

■アルディーン 千浩
(アルディーン・ちひろ)
外資系IT企業での海外営業を経て、外資系投資銀行に16年間勤務。その大半を香港で過ごし、2015年に帰国。女性管理職として参画したダイバーシティの活動経験を活かし、現在はIT企業の経営を担う。また、主に関西圏にて留学生を含めた高校生・大学生並びに若いキャリア層の支援を行う。京都及びアメリカ在住。

交流する機会そのものが少なく、学生達は興味を持った業界や職業の人とどのようにしてきつかけを掴み、機会を得れば目的の人と繋がることのできるのか理解することは難しいです。そこで、どのような場所や機会に出向き参加することで目的の業界の人とご縁が得られるのか、いつでもどこでもそのような会議が開催されるのか、さらには、インターンシップの公募情報を提供して必要となるノウハウを伝え、そのフォローに力を入れています。
講演会にはどのような講師の方を？
多様な業界でプロフェッショナルとして活躍し、社会貢献にも注力されている女性をお招きしています。仕事内容やそれぞれの業界における女性としてのキャリア、働く姿勢、生き方について等、広い視点でお話を伺った後、学生達とディスカッションを行います。学生はそうした経験を通じて、キャリアについて具体的な考えを構築していくのです。
企業と学生、インターンシップの橋渡しもされているのです。
はい。グローバル企業のインターンシップは実践型。学生は2〜3か月間ほど雇用され、実際に責任ある仕事を任せてもらえるのです。日本の大学は海外の大学と比較すると、夏季休暇が短く外資系企業が学生の受け入れを検討する際のハードとなり得るため、様々な企業に考慮をお願いしています。ホスピタリティ産業の職を希望する学生が多いこともあり、セントレジスホテル大阪やザ・リッツ・カールトン大阪にて数か月間のインターンシップの機会を得て、実際に学生を受け入れてもらうことができました。また、多くの企業は「募集していないでも応募して下さい」と仰るので、学生には積極的な応募を勧めています。
今後の展望をお聞かせください。
昨今、有資格者であることが経済的に安定した将来を約束されるとは限らない時代になりました。医師、弁護士ですら食欲に情報収集し、時代に取り残されないように努力する必要があると考えます。そこで、日々のニュースや世界情勢に沿った内容を心掛けており、新しい情報を常に取り込みながら、かつ受講する学生達のリアルな声を傾け、講義を行っています。講義が学生達にとって有意義なものとなるよう、積極的な少し多めの情報シェアし、さらに自分のものにしてほしいと願っています。大切なのは受け身ではなく積極的に情報を収集し「自分の頭で考える姿勢」です。

これまでに開催された講演会(所属は講演会時)

- ▶「Challenge yourself」
山本恵子 (NHK国際放送局 WORLD NEWS 部 記者)
- ▶「これからの女性キャリアとワークライフマネジメント」
レイノルズあひ (セントレジスホテル大阪 マーケティングマネジャー)
- ▶「就職活動での装い戦略 ~装いによるセルフ・プレゼンテーション基礎」
- ▶「人生を切り拓く力になる『装い』~あなたらしさを活かす、とは~」
西畑敦子 (ファッションレスキュー プロ/パーソナルスタイリスト)
- ▶「Sports needs a space」
Angela Ortiz (adidas Strategy & Business Development CSR Senior Manager)
- ▶「世界の土壌に立つ ~日本人女性としてトップにたつまでの道のり~」
山原明子 (Citibank N.A. General Counsel, Citi Private Bank Managing Director)



Supported Internships



キャリアセンターによるインターンシップ支援

就業体験を通じて 視野を広げよう！

シップから就職活動は始まっており、学生たちの参加意欲も高まっている状況から、キャリアセンターではインターンシップ参加を考える学生への支援を強化している。

夏のインターンシップは例年、6月から就職情報サイト等での募集が始まる。キャリアセンターではそのスケジュールに合わせて、①インターンシップの全体像を理解すること、②インターンシップでの選考に向けた対策（インターンシップ参加にあたっては、選考を実施する企業が多い）という流れで講座を実施している。

今年はまず5月8日（水）に、インターンシップの全体像を理解する3年生対象の「インターンシップガイダンス」を実施した。会場の講堂には多くの学生が来場し、キャリアセンター職員や就職情報会社担当者からの説明に熱心に耳を傾けていた。この後「インターンシップ選考対策講座① 基本編」「インターンシップ選考対策講座② 書類対策編」「インターンシップ選考対策講座③ ES（エントリーシート）実践編」「インターンシップ選考対策講座④ 就活マナー編」の4回連続講座を実施し、選考対策を行った。

これらと並行して、就職情報会社の株式会社マイナビの協力で「夏インターンシップ検索とお悩み解決ミニ講座」も実施。このミニ講座は、インターン

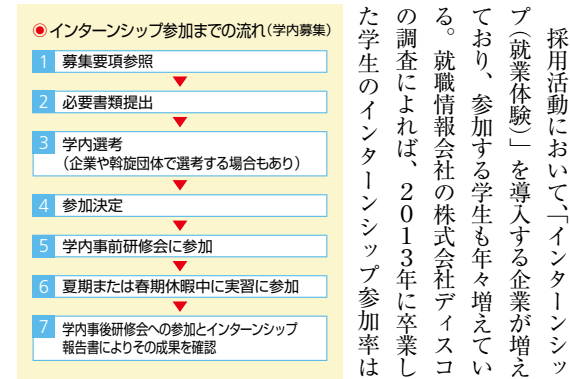


マイナビによるインターンシップミニ講座の様子

ンシップ参加者増加に対応するため2年前から実施しており、毎年テーマは変えている。今年は講座タイトルにもある通り、企業の探し方とインターンシップに関する疑問解消をテーマとした。

夏期インターンシップが終了した9月には、参加者を対象に「インターンシップ事後研修会」を実施するとともに、事後レポート提出を求め、インターンシップで学んだことをそのままにしておくのではなく、今後の就活で生かすためにそれぞれが経験を振り返る機会を設けている。

近年では、インターンシップを秋や冬に実施する企業が増えている。キャリアセンターでは、その対策講座の実施も予定している。キャリアセンター担当者は「生きた業界・企業研究ができる貴重な機会。視野を広げることができる。意識してほしい。」と学生にエールを贈る。



採用活動において、「インターンシップ（就業体験）」を導入する企業が増えており、参加する学生も年々増えている。就職情報会社の株式会社ディスコの調査によれば、2013年に卒業した学生のインターンシップ参加率は44・2%。それに対して、2020年卒業予定学生（現4年生）のインターンシップ参加率は86・2%に上り、ここ数年で参加率が急速に上昇している。

一方、企業側では近年のいわゆる「売り手市場」化に伴い、大手企業までもが新卒採用に苦戦しており、それに伴い本来の「就業体験」を超えて、採用のツールとしてインターンシップを活用する企業が増えている。インターンシップ参加者を採用選考において優遇すると回答した企業は71・6%に上る（株式会社ディスコによる調査より）ことがそれを表している。

このことから、実質的にインターン



オープンキャンパスで、 質の高いアンサンブル作りを体感

WIND ORCHESTRA

● 音楽学部 音楽学科
松浦 修 准教授 — MATSUURA Osamu



音楽学部は、今年度よりウインド・オーケストラを新設した。ウインド・オーケストラとは、管楽器と打楽器にコントラバスを加えた吹奏楽団のこと。学生はプロの演奏家と演奏しながら、小編成による質の高いアンサンブル作りを学ぶことが出来る。また、新設に伴い、サクソフォーン、ユーフォニウム、チューバ、バスクラリネットでの受験も可能になった。6月16日開催のオープンキャンパスでは、中高生対象の模擬授業が行われ、部活などで吹奏楽に力を注ぐ学生21人が参加。演奏のポイント等を学び、本学ならではの本格的なサウンド作りを体験した。ウインド・オーケストラの新設や模擬授業の開講、指導に尽力した松浦修准教授に話を聞いた。

女学院ならではの特色とは？

1つ目は、小編成による質の高いアンサンブル作りを体験できること。少人数で丁寧な音を作り、プロの演奏家と共に演奏しながら学んでいきます。

2つ目は、オーケストラとウインド・オーケストラ、両方のアンサンブルの1員となることができ、1年生からステージに立つ機会が豊富に与えられること。それぞれサウンドも演奏法のアプローチも全く違うため、両方を取り込む面白さがあり、学びの幅も広がります。

3つ目は、音楽学部以外の学生でも履修可能なオープン科目ということ。本学のリベラルアーツ教育の理念に添っており、選抜試験に合格すれば、履修でき単位も取得できます。

4つ目は、総合大学なので、就職も含め様々な生き方を考えられること。演奏の機会を自分で作ることも指導します。

模擬授業の内容は？

テーマは、2019年度全日本吹奏楽コンクールの課題曲の解釈と演奏のポイント、サウンド作り、演奏上達の練習法についてです。



午前中は、基礎的なコーラルの歌い方を学習し、簡単な曲でウォーミングアップ。フレージングやハーモニー等の役割をしっかりと理解してもらい、サウンドを作りました。午後は、大学生と一緒に一般の方向けに、公開ミニコンサートを開催しました。

参加者の反応はいかがでしたか？
皆、ぐんぐん吸収し、上達しましたね。終了後には「音の厚みや響きが全然違って、新鮮だった！」と声を弾ませていました。大学で専門的に吹奏楽を学ぶイメージがストレートに伝わったと思います。

今後の展望をお聞かせください。
より多くの中高生に、本学の特色ある教育から生まれるサウンドを体感して欲しいですね。ゆくゆくは地域やコミュニティなど、様々な場所で演奏する機会を増やしていこうと考えています。

——ウインド・オーケストラ新設の意義とは？
管打楽器教育の充実化です。管弦楽と吹奏楽の両体系を学ぶことは、専門音楽教育の主流。新たに吹奏楽教育の導入が必要だと考えました。中学・高校時代に吹奏楽部に所属し、

熱心に管打楽器を練習してきた学生はたくさんいますが、多くは大学に入る際に辞めてしまう。とても勿体ないことです。ならば、本学でしか出来ない特色のある教育を提供し、本学の学びに学生が集って欲しいと考えました。



文化財を通じ、地域文化の 広がりや豊かさに触れる

— 日本美術の奥深さに魅せられて —

● 東京国立博物館 アソシエイトフェロー
曾田 めぐみ さん—— SODA Megumi

漫画が好きで、中学時代は美術部に所属していた曾田めぐみさん。当時、地元で開催されていた「鈴木春信展」のフライヤーを見て浮世絵に魅了され、美術館や博物館の仕事に憧れを抱くように。「大事なのは、諦めることなく努力を継続すること。10年頑張ったら、やりたいことに一歩近づけるのではないかと思います」。大学を卒業してもうすぐ10年。曾田さんは、大学院や研究員を経て、東京国立博物館のアソシエイトフェローとして活躍している。



■ 曾田めぐみ (そだ・めぐみ)
2010年 文学部 総合文化学科卒業。2015年 大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了、美術史学専修。博士(文学、大阪大学)。東京大学大学院人文社会系研究科・特別研究員(PD)を経て、2017年より現職。専門は日本近世近代絵画史・浮世絵。論文「河鍋晩斎筆「地獄極楽めぐり図」再考—幕末明治の表象と追善供養のかたち—」で第13回美術史学会「美術史」論文賞を受賞。

● 日本の美術に関わり続けたい

「大学院へ進学し、将来は美術に携わる仕事に就きたい」。中学生の頃から変わらない思いを抱いていた曾田さん。女学院への進学を決めたきっかけは、友達付き合い添いで参加したオープンキャンパス。「こんな美しいキャンパスは他にない！」美術史だけでなく美学も学べ、英語教育等にも広く力を入れている。美術関連の大学院はないけれど、この大学ならと思ったという。

印象深い授業は、副専攻のアート・マネージメント。「思想家で武道家の内田樹先生(本学名誉教授)や、経営が専門の神吉直人先生(本学非常勤講師)など、バラエティに富んだ講師陣に囲まれていました。その先生方が様々な画家や講師の方を授業に招いてくださり、芸術の現場もたくさん見せてもらった。その

うした経験が今に繋がっている気がします」。また、ゼミの高橋雅人先生からは、論文を書く際に大切な教えを得た。「仮説を立て、結論まで達することが出来ない時は、仮説の立て方自体を見直すこと。今でも意識しています」。

就職活動に直面し、美術の仕事に就けるのかと悩んだ時期もあったが、日本美術の非常勤講師が大阪大学の助教だったことも幸運だった。「あなたの望む内容は阪大の院に進めば専門的に学べるよと教えてくださり、世界が広がりました」。

● 見えない努力で文化財を守る

現在、曾田さんが所属するのは、作品の収集や保管、展示を行う学芸研究部列品管理課。「東京国立博物館が所蔵する文化財は約12万件、点数にすると100万点にも及びます。その一つ一つ

を調べ、作者と作品名、サイズ、時代等をデータベース化していく。地道な作業ですが、展示に情報整理は欠かせません」。また、展示作品の入れ替えも行つ。「展示替えは年間で約300回。絵画分野だけでも月2・3回行います。日本や東洋の作品は紙や絹、木など素材が脆弱なため、長期間は展示できないのです」。

● 作品との関わりから見えるもの

昨年から、新たに発足した独立行政法人国立文化財機構文化財活用センターの仕事も兼務している。東京国立博物館が収蔵する文化財を、様々なミュージアムに貸し出し、展示・活用を促進するセクションで、曾田さんは貸与促進担当として輸送や保険の手配、費用の支援を行う。「大変なのは、関係各位の共通理解を固め、作品を無事に輸送すること。温湿度がコント



▲「あおり土偶展」(三内丸山遺跡センター)のチラシ
◀「独立行政法人国立文化財機構文化財活用センター」のホームページ

ロールされた美術品専門車を手配しますが、往復の移動だけでも100万円程かかり、ミスはできません」。輸送業者との契約を滞りなく行い、同乗する学芸員に正確なタイミングで動いてもらう。また、作品の取り扱いにも神経を使う。「特に難しいのは、明治以降の日本画。縦2m、幅1m以上の作品も多く、重さも相当あります。専門業者もありますが、自分でも扱えなくては……。私は小柄なので、体の特徴を捉えつつ、どう持てばうまく動かせるのかを常に意識しています。寝不足でふらふらしないよう、睡眠もしっかりとる。実は、筋トレを始めることも考えているんですよ(笑)」。

この仕事の醍醐味を尋ねると、「専門は絵画ですが、土偶や鋳物など専門外の作品にも深く関わることが出来る。文化の広がりや豊かさが感じられ、とても楽しいです」と返ってきた。先日は「あおり土偶展」のための視察で、三内丸山遺跡センターまで足を運んだという。「新青森駅に降り立った瞬間、潮風を感じた。風土の違いから、その土地でないと生まれなかった作品の造形があるのだなと実感しました」。

● 晩斎の代表作を読み解く

一方で、長年研究しているテーマもある。幕末から明治に活躍した絵師、河鍋晩斎だ。大学時代、没後120年

の特別展覧会を観て、その躍動感あふれる線に息をのんだ。卒業論文で扱い、大学院在学中に書いた論文「河鍋晩斎筆「地獄極楽めぐり図」再考—幕末明治の表象と追善供養のかたち—」は、第13回美術史学会「美術史」論文賞を受賞した。「地獄極楽めぐり図」は、晩斎のバトロンであった小間物問屋、勝田五兵衛の娘田鶴が14歳で夭折した際、追善供養に合わせて制作された全40図から成る画帖。その中で、田鶴は冥界を楽しみながら、極楽往生を遂げる。曾田さんは、そこに描かれている歌舞伎役者が、勝田家の最良筋で田鶴の憧れでもあった五代目尾上菊五郎であることや、共に描かれている子どもが後に亡くなった田鶴の親族であることなどを読み解いてきた。「勝田家の菩提寺が分かり、その過去帳を拝見して亡くなった年が分かり、寺の絵が当時に忠実であることが分かり——次々に史実が見えてくる。それがとても面白いです。毎年1図は研究会で発表していますが、40図もあるので終わりが見えないですね(笑)」。



(左) 曾田さんが河鍋晩斎の研究に取り組むきっかけとなった展覧会のチラシ
(右)「地獄極楽めぐり図」(一部) 河鍋晩斎 筆(静嘉堂文庫美術館蔵)

● 展覧会開催に向けて

「今度、ある展覧会で19世紀の日本美術を担当することになったんです。実際の展覧会で担当を務めるのは初めてのこと。目下、展示や構成の方法を勉強している真つ最中だ。「まだ漠然としていますが、目指すのは、その展示室に入っただけでワクワクするような、驚きをもつて観ていただける展示構成。先輩方に教えを請い、指導を受けながら頑張ります」。目を輝かせてそう語る曾田さんの新たな挑戦が楽しみです」。

本学学生が 2019ミス・ユニバース日本代表に！ Miss Universe Japan

8月に行われたミス・ユニバース® ジャパンファイナル(日本大会)において、本学学生の加茂あこさんがグランプリに輝き、2019ミス・ユニバース日本代表に選ばれました。加茂さんはこの冬開催予定の世界大会に出場する予定です。

Message from KAMO Ako —— 在学生の皆さんへ

“ この4年間の学びや発見はきっと人生の糧になるので、みなさんぜひ色々なことに挑戦してみてください。 ”



Miss Universe Japan®



Miss Universe Japan®



●人間科学部 環境・バイオサイエンス学科4年生

私は2年生後期に「鯨」をテーマにしたトリアルゼミに参加しました。面白かったのは、同じテーマでも、社会問題、国際問題、食品関連……と、学科ごとに調べてくる内容が違ったこと。集めてくる資料も、論文や新聞など様々でした。ディベートでは捕鯨問題に関する活動を止めるべきか続けるべきか等、正解のない問題を提示されました。相手に論理的に納得してもらえよう、皆の意見を尊重しつつディスカッションしていく中で、話し合う力や発想力、コミュニケーション能力が養われたと感じます。先月、学科のチームで、コープこうべ主催の「オリジナル神戸メロンパンコンテスト」に参加したのですが、ゼミでのプレゼン経験がとて役に立ちました。丸暗記せず、内容や制作過程などを頭に入れておけば、本番でパニックになっても大丈夫。——。そう思いながら準備し、無事に発表できて自信に繋がりました。

論理的に意見をまとめ、人前で話すトレーニングに

私は2年生後期に「鯨」をテーマにしたトリアルゼミに参加しました。面白かったのは、同じテーマでも、社会問題、国際問題、食品関連……と、学科ごとに調べてくる内容が違ったこと。集めてくる資料も、論文や新聞など様々でした。ディベートでは捕鯨問題に関する活動を止めるべきか続けるべきか等、正解のない問題を提示されました。相手に論理的に納得してもらえよう、皆の意見を尊重しつつディスカッションしていく中で、話し合う力や発想力、コミュニケーション能力が養われたと感じます。先月、学科のチームで、コープこうべ主催の「オリジナル神戸メロンパンコンテスト」に参加したのですが、ゼミでのプレゼン経験がとて役に立ちました。丸暗記せず、内容や制作過程などを頭に入れておけば、本番でパニックになっても大丈夫。——。そう思いながら準備し、無事に発表できて自信に繋がりました。



●文学部 英文学科3年生

私は「global warming」がテーマの英語クラス。私たちが地球に与える影響を、ハンバーガー1つの生産に必要な水の量を例に発表しました。英語でも分かりやすく伝わるよう、プレゼンではハンバーガーのパンズやパテ、野菜ごとの画像を用いることで言葉とビジュアルをリンクさせて説明しました。それぞれの材料が揃うまでに必要な水の量はおよそ350L（お風呂1.5杯分）に値します。プレゼンの設定を「An enemy of earth HAMBURGER」というテーマを取

楽しみながら工夫し、考える力が養われました

り上げるテレビ番組風に、興味を持って食べ物の大切さを感じてもらえるよう挑戦しました。全体を通して意識したのは、人文科学・社会科学・自然科学それぞれの視点を持つテーマに取り組むこと。「地球温暖化は地球の歴史では繰り返されてきたことで問題ない」といった自分とは異なる意見に接したことは印象的でした。実社会でどのような取り組みが行われているかを調べるために自ら調査に出かけ、5件のスーパードキュメント、レジ横でマイバッグ持参の状況を調査。そこから見てきたことを最終のプレゼンで発表しました。このゼミで経験した多くの資料や情報をまとめることは、これが必要になる考える力を養う最初のステップになったと思います。



専門を越えた学びの形「クローバーゼミ」

多角的な視点を持ち、自ら学びを深める

アクティブ・ラーニングの手法を用いた参加型授業

〈テーマ：「バイオアート」*の場合〉



※バイオアート：生命操作が可能な未来について疑問を呈する芸術作品

●1つのテーマを3分野から掘り下げる

神戸女学院大学では、2017年度からの新カリキュラム導入に伴い、「クローバーゼミ」を開講しています。1年生必修であるこのゼミは、異なる領域（人文科学、社会科学、自然科学、芸術領域）の中から3名の教員がチームを組み、学部学科を横断して集まった学生たちと、1つのテーマを多角的に掘り下げていくゼミ形式の講義です。教員（教える人）→学生（聞く人）という一般的な座学講義にあるような一方的な教育ではなく、教員は学生たちに専門性を活かした学びの導入部分を提示し、学生たちは自ら考え、調べ、議論し、まとめるアクティブ・ラーニングの仕組みを駆使した参加型授業です。クローバーゼミを通して学生の主体的な学びが喚起されることを狙いとしています。

この講義を通じて、「異なる意見を受け入れられる柔軟性」、「自分の意見を持ち、表現する力」、「場面ごとに自分のやるべきことをやる適応能力」などの決して偏差値では測れない様々な「人間力」が養われます。

学生は、物事には様々な視点があり、正解は一つではないことを実感して、大学での専門領域の学びや、卒業後の生き方に活用してほしいと願っています。



●人間科学部 心理・行動科学科3年生

私達の班のテーマは「鯨」。特に印象に残っているのは、捕鯨についてのディベートです。自分が賛成派になるのか反対派になるのか当日まで分からず、両方の意見を準備しました。ひとつの問題を両面から考えるトレーニングになり、それ以来、「ニュースを見ても『こういう可能性もあるんじゃないかな?』と、別の意見を考えるのが

問題を多面的に考える習慣が身に付きました

習慣になりました。これは授業でも役立つので、心理学でサイモン効果についてのレポートを書いて行きたかった時も「心理学から離れて生理学の文献を探してみたらいいかも!」と閃き、完成にこぎつけました。よかったのは、ゼミが1年生の必修で、大学生生活の最初の時期にレポートの書き方を基礎からしっかり学べたこと。先生が毎回丁寧に添削してくださり、文法や文獻の引用方法などが身に付きました。調べ物も多かったで、文献を探すことへの抵抗も無くなりました。最初は皆、与えられたテーマにげつ!となりまふ(笑)。でも、興味のないことは知らないこと。クローバーゼミは、自分からは取りにいかない、普通に生活していたら得られなかった情報に出会える貴重な機会だと思っています。



遺伝子

私の班のテーマは「遺伝子」でした。まず、先生からの指定図書「消滅世界」(村田沙耶香著/河出書房新社)を読んで衝撃を受けました。人工授精が飛躍的に発達した、もう一つの日本の話です。本の話はSFだけど、現代社会でも出生前診断などは話題に上ります。障害を持った子がお腹にいると分かった時、自分ならどうするか? 女性として将来考えるかもしれないことを、突然、目の前に突きつけられた気がしました。他にも「もし、遺伝子分析によってDNAの段階で病気が分かるようになったら?」それで差別が起こったら?」などの問題提起もあり、イルカが人を出産している写真も見ました。合

世界の事象を自分のこととして考えるきっかけに

ゼミは少人数制で発言の機会が多く、様々な考えがあつて違う意見も認めてもらえる場でした。自分の引き出しの少なさには驚きましたが、考えを人に伝えることの大切さや、知識があればより深い話に繋がることを学びました。世界の問題は他人事ではない。子どもから大人へと考えが移行されました。



●文学部 総合文化学科3年生



●音楽部 音楽学科3年生

私のテーマは「食」。身体と食、言語と食、メディアと食——3つのトピックを扱いました。私は声楽専攻なので、普段は自分と関わる感覚で生活しています。クローバーゼミは他学科の人と関わりながら発表するため、「仲間と作る感覚」がすごく新鮮でした。プレゼンは限られた時間内でディスカッションして発表するため、全体の流れや時間配分にも気

音楽活動で培った力を認識することが出来ました

を付けました。本番では時間が余ってしまったのですが、私が最後の発表者だったので、調べた知識などを付け加え、調整しました。よかったのは、ディスカッションすることで、音楽によって培われ身に付いていた力に気付けたこと。例えば「演奏者は伝えることが使命」と常に意識しているの、発表する時も固くならず、身振り手振りを付けて話が出る。日々レッスンしているの、プレゼンの練習も苦にならない等です。また、他の人が話す様子を見て、伝えようという熱意は目線や表情からわかるものなんだと、客観的に捉えることができたのも収穫でした。女学院は総合大学の中に音楽学部があるのがよいところ。特にこのゼミは、音楽以外の知識を得られる機会であり、音楽にも役立つ発見の場でした。





講演会・公開講座・コンサートなど

音楽学部講演会・公演

- 定期演奏会
日 時：11月26日(火) 18:30開演
場 所：兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール
入場料：1,000円
 - 舞踊専攻第11回卒業公演
日 時：12月12日(木) 18:30開演 / 12月13日(金) 18:30開演
12月14日(土) 13:00開演、18:00開演
場 所：神戸学院大学 エミリー・ブラウン記念館 地下2階スタジオA
入場料：1,000円
 - オペラ実習発表会
日 時：2020年2月13日(木) 開演時間未定
場 所：神戸女学院 講堂
入場料：無料
 - 卒業演奏会
日 時：2020年2月25日(火)～27日(木) 18:00開演予定
場 所：神戸女学院 講堂
入場料：無料
 - 舞踊専攻第14回公演
日 時：2020年3月12日(木) 19:00開演予定 / 3月13日(金) 18:00開演予定
場 所：兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール
入場料：2,000円
 - 修了披露演奏会
日 時：2020年4月16日(木)
場 所：宝塚ベガ・ホール
入場料：1,000円
 - 新人演奏会
日 時：2020年4月22日(水)
場 所：いずみホール
入場料：1,000円
- 問い合わせ：音楽学部事務室 TEL 0798-51-8550
FAX 0798-51-8551 E-mail: music@mail.kobe-c.ac.jp

アウトリーチ・センターイベント

- 第54回 子どものためのクリスマス・コンサート ～届け！音楽の魔法～
日 時：12月7日(土)
第1部 11:00～12:00(10:15開場) 年齢制限なし
第2部 15:30～16:30(15:00開場) 幼稚園年長以上対象
場 所：神戸女学院講堂
出 演：アンサンブルそらいろ
草野舞(声楽)、山下優子(声楽)、宮下優花(ヴァイオリン)、
向井千沙都(ピアノ)、齊藤明日香(ピアノ)
参加費用：大人500円、子ども(19歳以下)300円・申込み：要
- 第55回 子どものためのオルガン・コンサート ～わたしもほくもオルガン博士！～
日 時：2020年2月8日(土) 14:00開演(13:15開場) 3歳以上対象
場 所：神戸女学院講堂
出 演：大木麻理(オルガニスト)、米澤唯、竹嶋南帆、山田佳世子、
森友歌(音楽学部オルガン専攻生4名)
参加費用：大人1,000円、子ども(3～19歳以下)500円・申込み：要
問い合わせ：音楽学部アウトリーチ・センター TEL 0798-51-8584
FAX 0798-51-8551 E-mail: concertfch@mail.kobe-c.ac.jp

総合文化学科主催講演会

- 「天皇代替わりと民主主義」
日 時：11月26日(火) 16:40～18:10
場 所：文学館 L-28教室
参加費用：無料・申込み：不要
- 「今を生きるアイヌ民族の学びと伝え合い」
日 時：12月17日(火) 16:40～18:10
場 所：文学館 L-28教室
参加費用：無料・申込み：不要
問い合わせ：文学部事務室(総合文化学科)
TEL 0798-51-8549 E-mail: i-office@mail.kobe-c.ac.jp

金曜日公開プログラム

- クリスマスオルガンコンサート
日 時：12月6日(金) 10:35～11:25
場 所：神戸女学院講堂
出 演：西山聡子(学院オルガニスト)、追中宏美(学院オルガニスト)
- キャロルをうたおう
日 時：12月13日(金) 10:35～11:25
場 所：神戸女学院講堂
指 導：齊藤言子(学長・音楽学部教授)



書評コンテスト表彰式(2018年度)

- 新年礼拝、書評コンテスト表彰式
日 時：2020年1月10日(金) 10:35～11:25
場 所：神戸女学院ソールチャペル
説 教：大澤 香(チャプレン)
※新年礼拝終了後に書評コンテスト表彰式を行います。
- 音楽研究科1年生によるコンサート
日 時：2020年1月17日(金) 10:35～11:25
場 所：神戸女学院講堂
主 催：音楽学部
問い合わせ：チャプレン室 TEL 0798-51-8502

高校生等参加イベント

- オープンキャンパス
日 時：12月15日(日) / 2020年3月21日(土) 10:00～15:00
内 容：模擬講義、キャンパスツアー、各種 相談コーナー 他
問い合わせ：入学センター TEL 0798-51-8543
- ラボ見学ツアー ～理学館体験～
日 時：12月15日(日) / 2020年3月21日(土)
場 所：理学館 S-24教室またはエミリー・ブラウン館
参加費用：無料・申込み：不要
(対象：高校生・予備校生等の女子、保護者、教員)
問い合わせ：人間科学部事務室 TEL 0798-51-8553
FAX 0798-51-8560 E-mail: jin-jim@mail.kobe-c.ac.jp
- 定期講習会(音楽)
日 時：12月15日(日)
場 所：神戸女学院大学 音楽館
参加費用：無料・申込み：要
問い合わせ：音楽学部事務室 TEL 0798-51-8550
FAX 0798-51-8551 E-mail: music@mail.kobe-c.ac.jp

めぐみ会主催行事

- 2019めぐみ公開講座
- 2019 キリスト教セミナー
ヨブ記との対話(全3回)
第1回：2020年2月6日(木) 10:30～12:00
問題の発端(ヨブ記1-2章)
第2回：2020年2月20日(木) 10:30～12:00
友との論争(ヨブ記3-37章)
第3回：2020年3月5日(木) 10:30～12:00
主の創造した世界(ヨブ記38-42章)
講 師：学校法人神戸女学院理事長・院長 飯 謙 氏
会 場：神戸女学院めぐみ会館
受講料：各回1,000円(学生無料) ※要予約(ホームページからも可)
問い合わせ・申込み：公益社団法人神戸女学院めぐみ会
TEL 0798-51-3545 URL: https://megumikai.or.jp/

「Vistas」アンケートのお願い

神戸女学院大学広報誌「Vistas」をご覧いただきありがとうございました。
P.17～18にアンケートハガキがございますので、皆様からのご意見・ご要望等をお寄せください。

—※行事について特に記述のないものは、基本的に申し込み不要・無料です。—